教科等研究会（小・中学校書写部会）
令和６年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

書くことに意欲と喜びが持てる書写指導の在り方
～自ら気付き、高め、楽しんで日常生活に役立てる実践を求めて～

２　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
６／２５	１０名	滝尾小	８／２０	滝尾小	講話及び実技研修 倉橋宏明先生	９／２４	嘉島中	事前研 池部麻依教諭 （矢部中）	９／２７	矢部中	授業研及び実践報告会 池部麻依教諭 （矢部中）

３　研究の概要

(1) 研究の内容

昨年度までの研究をさらに進めていくために、今年度も引き続き同じテーマとし、サブテーマを日常生活につなげるものとしたい。

授業において、単元のゴールを明確化し、児童生徒とゴールやゴールまでの授業の構想を共有することで、児童生徒は１時間１時間の課題を自ら考え、自分の文字を上達させるためのポイントをつかんでいく。そこで味わう達成感により、それぞれが自分の書いた文字に自信が持てるようになると考える（「分かる・できる」）。そして、得た自信と文字に対する知識・理解が日常の書字にも生かされ、「書くことに意欲が持てる」ことにつながっていくと考える（「楽しい」）。また、相手意識を持たせたり、相互評価をしたりすることで、「書く喜び」が感じられると考える（「喜び」）。

「自ら気付き、高め」とは、児童生徒が試書→練習→清書→評価という学習活動の中で、試書と手本の文字を比較し、学習課題を達成するためにはどのような改善が必要かを自ら考えるとともに、自分自身の課題も意識して練習し、より良い文字となるような作品作りに取り組むことと考える。「楽しんで日常生活に役立てる」とは、書写の学習で学んだことを自分のものとして、各教科の学習や生活の様々な場面（模造紙へのまとめや手紙、書き初め等）だけでなく、日々のあらゆる場面で意識しながら積極的に生かすことで、楽しんで日常生活に役立てる態度を育成することができると考える。

本年度の実技研修は、学んだ事を即実践できるよう、また、授業での悩みを解決できるものにしたいと考えた。そこで、書写の授業でたくさんのアイデアをお持ちの元熊本市校長である倉橋宏明先生を講師としてお招きし、模擬授業と講話をしていただいた。

研究授業では、例年同様小学校と中学校が毎年交互に担当し、相互の立場から意見交換する形で研究を進めている。本年度は、中学校で研究授業を実施した。事前研究会で、それぞれの校種の立場から、小学校と中学校の授業の繋がりを考え、議論した。実際の授業の様子を共有することで、小・中学校の書写授業の活動の工夫や指導法を学び合うことができると考える。

(2) 成果と課題

実技研修では、元熊本市校長である倉橋宏明先生を講師としてお招きし、部会員が児童・生徒役として、模擬授業をしていただいた。

倉橋先生からの講話の中で、児童生徒らができたと実感させるためには、文字をしっかり見ることが大事だということを知った。文字をしっかり見るために、手本をよく観察し、自分の字と見比べ、字を分解し、パズルのように組み立て、少し違った角度や位置に違和感を持たせることが大事ということを体験することができた。字の違和感に気付かせることで、注意すべきポイントが明確になり、短時間で字の上達が見られた部会員もいた。また、透明シート（B4 版のファイル）を活用し、なぞり書きを行った。なぞり書きをさせることで、自分で字を見比べることができ、次何に気を付けるべきか考えることができた。

参加した部会員からは、次のような感想が寄せられた。

・授業形式での研修で、子どもの立場で参加でき、「提供してくれた子の作品は批判しない」など改めて気付かされた。

・分解文字を初めて自分で作ったが、作ったものを自分で組み立て、操作する中で、点画の間隔や傾き、バランスなど考えながら取り組んだ。これを授業でやると生徒も興味を持って学習するだろうと思ったので、授業で使っていきたい。
・担任をしていて、初めて筆と墨を使って字を書く児童も多いので、子どもたちに苦手意識を持たせないように「上達した。」と思える授業をしていきたい。

自分たちの授業を振り返り、２学期以降の授業に活用したいという意欲が高まる有意義な研修となった。

４　実践事例

(1) 授業の概要

《研究協議の内容》

・夏の実技研修で学んだことを授業に取り入れ、自己批正をすることで、行書の特徴に生徒が自ら気付く授業にしたい。行書の筆脈をとらえやすくするために、デジタル教科書を使用し、視覚的な手立てを行いたい。（授業者の思い）
・時間配分の難しさを感じた。準備片づけの時間をどう扱うべきか。
・落ち着いた学習態度で、書いた自分の字を見つめ気付き、自己批正、相互評価にも意欲的に取り組んでいた。動画で筆脈を確認したことで、生徒の取りかかりがスムーズだった。

(2) 学習構想案

第１学年　国語科　学習構想案

日　時　令和6年9月27日（金）第5校時
場　所　1年2組教室
指導者　教諭　池部　麻依

１　単元構想

単元名	行書の書き方を学ぼう（「新しい書写」東京書籍p30～p38）		
単元の目標	(1)　漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。 〔知識及び技能〕(3)エ(イ)		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①漢字の行書の基礎的な書き方を理解している。 ②身近な文字を行書で正しく書いている。	①行書の基礎的な書き方を理解し、学習や生活の中でどのように生かすか考えている。	①自ら行書の特徴に気づき、身近な文字を書く活動に積極的に役立てようとしている。

単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
行書の基礎的な特徴を理解し、生活の中で文字を書く際に、場面に応じて楷書と行書を使い分けようとする生徒の姿。	
単元を通した学習課題	本単元で働かせる見方・考え方
行書の特徴を使って、自分の名前と身近な文字を毛筆で表現する。	漢字の行書の基礎的な書き方を理解し、身近な文字を行書で書くことを通して、日常生活の中で積極的に役立てようとする。

指導計画と評価計画（４時間取扱い　本時2／4）

過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的な評価規準」を記載
一	1	○　これまでの学習をふり返り、行書の特徴を確認するとともに、本単元の目標を押さえ学習活動の見通しもつ（硬筆）。	【知①】（ワークシート） 【思①】（発表）
二	2	**○　点画の連続について、書く動きと連続の仕方を理解して身近な文字を毛筆で書く。【本時】** ○　自分の名前を行書で書く時の特徴を押さえ、行書で正しく書く。	★【知②】（行動観察・ワークシート） ○身近な文字を行書で正しく書いている。 ★【態①】（ワークシート） ○自分の名前を行書で書く際、どの部分に特徴が見られるか進んで考えて書こうとしている。
三	1	○　行書の特徴を生かして、身近な文字と自分の名前をまとめ書きする。	★【思①】（作品・ワークシート） ○学習したことを生かして、身近な文字と名前の調和を図りながら作品を仕上げようとしている。

２　単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容，指導事項等)

中学校学習指導要領第1学年

1　知識及び技能

（3）　我が国の言語文化に関する事項

　エ（イ）　漢字の行書の基礎的な書き方理解して、身近な文字を行書で書くこと。

教材・題材の価値

本題材「日光」は、基礎的な行書の特徴を理解し、正しく書くことができる題材である。行書の特徴の中でも点画の連続に焦点をあて、筆脈の実線化と直接連続について視覚的にも分かりやすい題材である。また、毛筆で書くことでより行書の特徴を実感することに適した題材である。

本単元における系統

小５、６年　毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。

中１年　楷書の書き方を確かめよう
点画の書き方と字形の整え方を捉える。

中１年　行書の書き方を学ぼう
行書を書く時の動き、点画の連続と変化を捉える。

中２年　行書の書き方を学ぼう
点画の省略と変化。行書と行書の調和を捉える。

生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■生徒の実態は次の通りである。

《生徒の実態調査から》（男子7名、女子12名、計19名）

調査内容	好き	まあ好き	少し苦手	苦手
①　文字を書くことは好きですか。	2人	9人	7人	1人
②　書写の授業は好きですか。	4人	11人	2人	2人
③　書写の授業で学んだことを生活に生かしていますか。	いる	16人	いない	3人
④　文字を書くときに気をつけていることは何ですか。	・丁寧さ　・バランス　・きれいに早く　・相手意識			
⑤　文字を書くときに困っていることはありますか。	ある	8人	・癖があること ・中心がそろわない	

《考察》

本学級の生徒は、文字を書くことに3分の1の者が苦手意識を持っているものの、書写の授業には意欲的に取組むことができる。授業では、手本を見ながら丁寧に書こうとする姿勢が見られる。他の教科のノートや家庭学習のノートの文字はあまり丁寧に書くことができていない生徒がいる。また、丁寧に書こうとする意識が強く働き、ノートをとることに集中してしまい、授業内容を聞き逃す者もいる。書写の授業を通して、行書の特徴を理解し、身近な文字を書く際に般化させ、文字を書く活動を充実させる必要があると考える。

3　指導に当たっての留意点

〇楷書と行書の字形を比較することで行書の特徴に生徒が自ら気づくように促す。

〇書字活動には個人差があるため、苦手意識が高い生徒については、筆使いにおいて個別に具体的な指導を行う。

〇行書の筆脈をとらえやすくするために、視覚的な手立てを行う。

4　研究テーマ

書くことに意欲と喜びを持てる書写指導の在り方
～自ら気づき、高め、楽しんで日常生活に役立てる実践を求めて～

《関連の手だて》

〇行書の基礎的な動きについて、動きに名前を付けることで筆脈をとらえやすくし、題材以外の文字を書く際にも生徒が自ら意識できるようにする。（第1時）

〇行書の筆脈の連続を意識できるように、分解した点画パーツを組み合わせる活動を行う。（第2、3時）

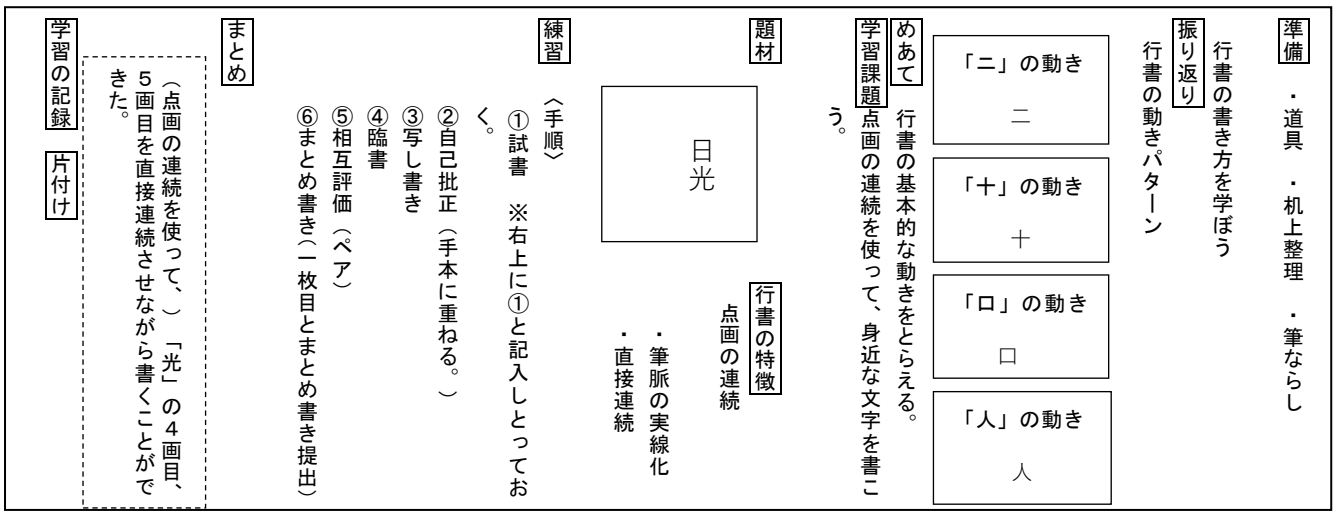
〇行書で書かれた名前の手本を用意し、練習に取組むことで日常生活においても自分の名前を行書で書こうとする意欲を高める。

5　本時の学習

(1)目標　点画の連続について、書く動きと連続の仕方を理解して毛筆で書く。

(2)展開

過程	時間	学習活動 （◇予想される生徒の発言）	指導上の留意事項 （学習活動の目的・意図，内容，方法等）

導入	5分	**1　前時の振り返りと目標の確認【一斉】** ①行書を書くときにはどのような動きがありましたか。 ◇「ニ」「口」「十」「人」の動きがあった。 ◇「東」や「大」などの文字を書いた。 ②本時の学習の見通しをもつ。【一斉】	○行書を書く時の特徴的な動きについて振り返る。 「『ニ』の動き」のように、キーワードを使って、動きを表わすカードを提示することで視覚的にも理解を促す。 ○自分の名前も行書で書くことを伝え、完成した作品は文化祭で展示することを確認する。
展開	30分	【めあて】行書の基本的な動きをとらえる。 【学習課題】点画の連続を使って、身近な文字を書こう。 **2　題字を毛筆で書く。【個人】** ①　手本なしで、「日光」と行書で書く。 ◇「日」の中には「二」の動きが入っている。 ②　筆順を確認する。 ◇「光」の4画目と5画目が連続している。 **3　手本と比較する。【個人】** ②　手本の上に重ね、自己批正する。 ◇「日」は全体的に縦長い形になっている。 ◇「光」の4画目から5画目の角度が開いている。 **4　題字の練習をする。【個人】【ペア】** ①　手本の写し書きを行う。 ②　手本を見ながら臨書する。(3～5枚) ③　臨書したものをペアで見合い相互評価する。 【期待される学びの姿】 手本を良く見て、行書の特徴に自ら気づき「筆脈の実線化」や「直接連続」などの筆使いで練習に取り組む。 **5　まとめ書きをする。【個人】【全体】** ①試書とまとめ書きを並べて比較し、学習のふり返りを記入する。 ②試書きとまとめ書きの写真を撮り、提出する。	○行書の特徴や基本的な動きを使って、書くように促す。 ○試書はまとめ書きと比較するため、残しておく。 ○動画を使って、筆順と筆遣いをイメージできるようにする。 ○手本の上に自分が書いた紙を重ね、点画の長さや筆脈、気づきなどを赤で書き込む。 ○「日」の3画目、4画目の筆脈の実線化、「光」の4画目、5画目の直接連続の2カ所を意識して書くことを確認する。 ○連続する筆脈を書けるように、筆を半紙から離し過ぎないようにする。 ○必要に応じて①②を繰り返す。 【具体の評価基準】観点：知② ○「日光」という身近な文字について、点画の連続を正しく捉え、書いている。 （方法：作品、学習の記録、発言） 【到達していない生徒への手だて】 ○行書の特徴を個別に確認し、点画が連続する部分の筆遣いを具体的に指導する。
終末	10分	**6　本時の学習を振り返る。【一斉】** ①班で互いの作品を見合い、振り返りを共有する。 ◇行書の筆遣いを意識して書いたら、最初に書いた文字より字形を整えることができた。 【まとめ】点画の連続を使って「光」の３画目と４画目を直接連続させて書くことができた。 **7　学習道具の片づけ**	○数名の生徒の作品をモニターに提示し、全体で試書との変化を共有する。 ○本時の気づきを生かして他の身近な文字を書くことにも取り組むことを伝える。 ○次の時間では、文字のバランスを整えよりよい作品に仕上げることと、自分の名前を行書で書く練習を行うことを確認する。

【板書計画】